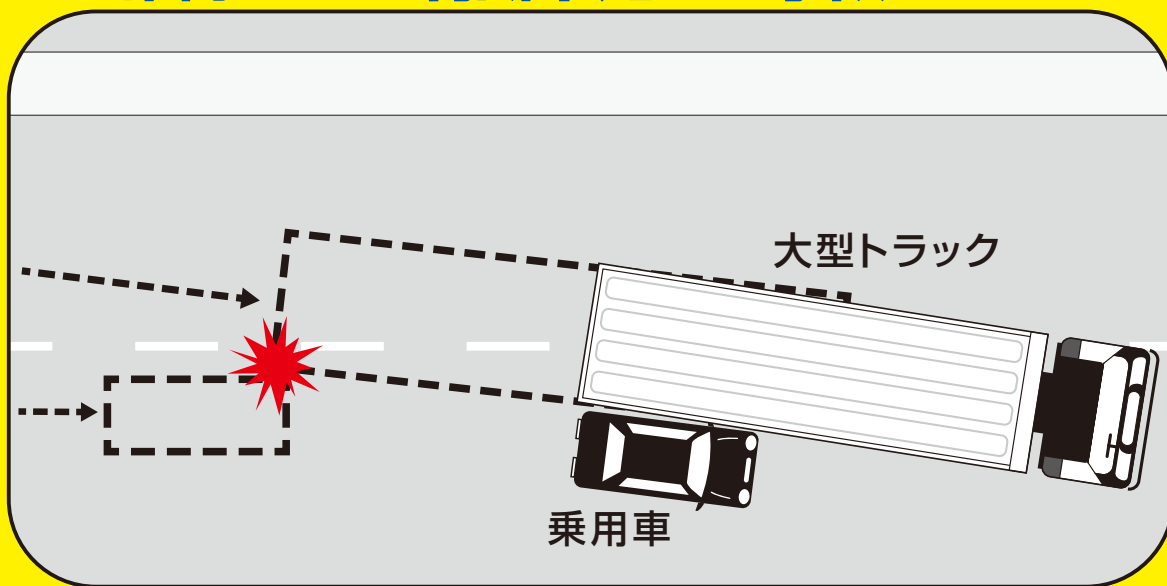


双方が相手を確認した後の事故

～確認しても判断不足だと事故になる～



YONKOKYO

事故事例ニュース

第273号

四国交通共済協同組合
安全対策部
坂出市番の州公園6番6号
(安全対策部直通)
0877-85-7992
電話0877-44-4416代

どのような場所か…

片側二車線の高速道路
晴天で見通しの良い一直線
傾斜も無し

どのような事故か…

車線変更の大型トラックと直進自動車が接触。

大型トラック: 走行車線を80～85km/hで走行。先行の乗用車が遅く、右ミラーで追い越し車線を確認するが、何も映っていなかったため、遅い乗用車を追い越そうと車線変更を行う。

乗用車: 追い越し車線を85km/h位で走行。左前方に右ウinkerを出している大型トラックを確認したが、近距離の為車線変更はしないものと判断し、そのまま追い越そうとした。

原因は……

大型トラック: 右後方の死角の見落とし
乗用車: 危険予知に関する判断・認識不足

この事故を防ぐためには…

確認を過信せず、慎重に再確認運転を。

大型トラック

死角の方向(死角は自車との距離ではなく方向)を十分に認識し、ミラーで見える範囲は限られた範囲であるため、前方不注視とならない程度で後方の安全確認を何度か行う。

※「映っていない・見えていない」は、「いない」とイコールにはなりません。見落とししている可能性は十分にあります。

乗用車

乗用車から大型トラックが見えていても、大型トラックから乗用車が見えていると過信するのは危険。

※「自分が～であるなら、相手も～である」といった認識の基で判断し行動することは危険な行為です。

《事故防止上の注意点》

確認は重要ですが、見えている危険はごく一部です！

- 事故報告で「相手はいなかった」との言葉が多くでます。「いない」のではなく「見えていなかった」とのケースが大部分を占めています。死角に潜む危険も再確認すれば死角から出ている事もあります。
- 相手の動きを「自分の期待・都合主義」で判断しないこと。相手は自分と違う思考・判断で行動している可能性を常に持つこと。

危険予知 見落とし 無いかもう一度